

ねっとわーく

市町村のページ〔特集：特色ある公民館活動〕

- つながりながら元気に育て！「地域の宝 子ども達」
……北九州市立錦町市民センター
- 引津校区学童相撲大会～子どもは地域の宝～
……糸島市引津公民館
- 「中学生とのふれあいの会」の取り組みについて
……みやま市瀬高町水上校区まちづくり協議会
- ライフステージに応じた学習機会の提供
……飯塚市中央公民館

こちら県公連

- 第64回福岡県公民館大会事業報告

令和元年11月 公民館情報通巻145号

発行 福岡県公民館連合会

〒812-8575

福岡市博多区東公園7-7

福岡県教育庁教育振興部社会教育課内

TEL 092-643-3887

FAX 092-643-3889

特色ある公民館活動



北九州市立錦町市民センター



糸島市引津公民館



瀬高町水上校区まちづくり協議会



飯塚市中央公民館

つながりながら元気に育て！「地域の宝 子ども達」

北九州市立錦町市民センター

【地域の概要及び経緯】

錦町市民センターは、北九州市門司区にあります。風師山の頂に近い高台から山麓、さらに関門海峡がすぐそばに迫る海沿いまでの、海と山に包まれるように位置する地域です。

平成31年3月、初期の駅舎を最大限に復元し再出発したJR門司港駅を中心に、観光客が増え続けている「門司港レトロ」、地域住民の保存・修復、文化を継承するための努力・協力・行動力の賜物である「三宜楼」・「錦町公民館」・「もじろじ」など、和と洋、古と新が融合・共存する姿がこの地域の特徴です。

【活動内容】

大人と子どもが、地域の人と顔見知りになりつながり合うことを目標に、赤ちゃんから未就園児とその保護者対象のフリースペース「ひよこ」、夏休み中の小学生を対象に、学習スペース「かもめくらぶ」を実施しています。

●フリースペース「ひよこ」

毎週水曜日の10時から12時、多目的ホールで子育てサポーターや保護者同士の見守りの中で、安全に楽しく活動しています。おおむね月1回はイベントの日とし、担当職員・生涯学習推進コーディネーター・子育てサポーターで企画・実施しています。「今日は誰も来ないねえ」という日さえあった水曜日が、今ではたくさんの小さな子ども達の可愛い姿に和む大人たちの笑い声であふれています。



「ひよこ」のクリスマス会



大人と一緒にハツラツ体操

●にしき学習スペース「かもめくらぶ」

夏休み中の10日間の午前中、門司海青小学校児童20名を対象に平成29年度から実施しているもので、自主学習、地域の大人や小さい子ども達との交流、講座、館外学習などの活動をして過ごしています。児童自らが参加を希望し、8日以上参加できることなどを条件に案内募集をしています。地域の青少年育成協議会・老人会・民生委員会・子育てサポーター等がふんじた「見守り先生」に褒められたり励まされたり、時に叱られたりもしながら、この夏は1年生～6年生の21名の子ども達が活動しました。

【成果と課題】

2つの事業により、市民センターに子ども達がいる日が圧倒的に増え、いつも体操やクラブ活動、講座などに集まる大人（特に高齢者）からは、「かわいい」「元気がいい」「子どもの声があると賑やかで楽しい」と目を細め笑顔になる様子が見られます。子どもの存在がいかに大きく、素晴らしいものであるか再認識し、あらためて「地域の宝」であると感じています。「異世代交流」を意識し活動に取り組んでいることが、地域のより多くの人と知り合い、信頼関係を築くきっかけになっていると実感しています。さらに多くの人に「ひよこ」「かもめくらぶ」の活動を知ってほしいと願います。そのために、情報をどんな方法でどこに届け、関心や参加につなげていくか、アンテナを張り、考えをめぐらせ、行動していくことがこれからの課題です。

【問合せ先】北九州市立錦町市民センター

〒801-0833 北九州市門司区清滝三丁目5番5号

TEL332-5600 FAX 332-5611 HP <http://www.ktqc01.net/mnij/nmsf/>

引津校区学童相撲大会

～子どもは地域の宝～

糸島市引津公民館

《校区の概要》

引津校区は糸島市北西部の海岸線に位置しています。校区内には離島の姫島もあり、姫島には市営渡船「ひめしま」で渡ることができます。

引津校区は農漁業を中心とした第一次産業が盛んな地域で、特に牡蠣養殖が盛んです。沿岸部では毎年秋から冬にかけて多くの牡蠣小屋が営業しており、近隣の方だけでなく全国からたくさんの観光客が訪れています。また、芥屋の大門（国指定天然記念物）や小富士梅林など、多くの観光スポットがあります。

人口は 2,158 世帯 5,183 人（平成 31 年 3 月末時点）で、近年の少子高齢化に伴い、高齢化率が糸島市で最も高い（38.2%）校区となっています。子どもの数も減少傾向にある中、地域と一体となった子どもの育成が課題となっています。

《引津公民館校区支援事業 引津校区学童相撲大会》

引津校区では、引津青少年育成校区民会議が主催して、引津校区学童相撲大会を実施しています。引津公民館では、事務局として各団体との連絡調整を行うなど、地域と密接に協力しながら相撲大会のサポートを行っています。

この学童相撲大会は、相撲を通して健やかにたくましく生きるための健康な心・体力・技量を育ていくと共に、礼儀・節度・規律を身につけることを目的としています。参加者は引津校区にある 2 つの小学校（引津小学校・姫島小学校）の児童 132 人で、保護者や地域の協力のもと、本年度で 38 年目を迎えます。男子は裸にまわし、女子は体操服にまわしを付け、ボランティアの行司の立会のもと、真剣に取り組んでいます。また、参加する地域住民にとって、子どもたちが地域の中で育っていることを感じる機会となっています。



《今後の課題～ボランティアの育成》

引津校区にとって、子どもの健全育成を図る場となっているこの相撲大会を継続していくためには、指導者・行司・運営者などのボランティアを育成し、次世代に引き継いでいけるようにしていかなければなりません。

引津公民館は、今後も校区行事を支援し、校区の皆さんが、より気軽に利用できるような開かれた公民館となるよう引き続き努力していきます。



【問合わせ先】糸島市引津公民館
〒819-1322 糸島市志摩御床 2165-3
Tel/fax 092-328-0855

「中学生とのふれあいの会」の取り組みについて

みやま市瀬高町水上校区まちづくり協議会

【地域の概要と経緯について】

水上校区はみやま市の北東部に位置している。昔から米や野菜作りが盛んで、特に「セロリ」の生産は西日本最大の産地になっている。観光面では、清流矢部川沿いの楠樹林が、福岡県の天然記念物に指定され、その北側には県立筑後広域公園がある。また、炭酸含有量の豊富な「長田鉱泉」も有名である。

現在の東山中学校の生徒は111名で、以前から親子ふれあいバレーが恒例になっていたが、平成15年度から「中学生と語る会」を結成して中学生と地域の役員代表が意見交換を実施してきた。その中で、校区まちづくり協議会のふれあい運動会の種目や環境美化作業等の意見が出て、それに基づいた活動は現在も継続している。

【活動内容について】

「中学生とのふれあいの会」は、体育の日に実施している。地域の参加者は、区長・自治公民館長・民生児童委員、まちづくり協議会の役員、担当役の青少年健全育成部役員等約40人で東山中学校生徒の希望者、中学校教職員代表等と一緒に水上校区の環境美化作業を実施してきている。

まず事前に役員で具体的な計画を立てて、中学校に協力依頼をしている。当日は参加生徒や支援者を含めて6班を構成して、グループ毎に一人一人が金鋏やビニールのごみ袋を手にして、道路や側溝等の美化作業を行い、空き缶、ペットボトル、たばこの吸い殻、紙くず等を拾い集めている。収集したごみは校区の公民館前に集めて皆で分別も実施している。

その後、校区の駐在所の方から防犯教室を実施してもらっている。「スマホの問題や身近な犯罪」についての話に生徒が真剣に聞き入っている姿が印象的である。最後に役員が、沢山の肉や野菜やおにぎり等準備して、バーベキューを皆で楽しみ、お互いの親睦を深めている。

【成果と課題】

環境美化作業を始めた当初は、軽トラック2台程のごみの量だったが、最近は1台程度で、年々ごみの量が減少してきている。また「中学生とのふれあいの会」を通して生徒同士のふれあいや地域住民とのふれあいも深まり、中学生の地域に対する環境美化意識が年々向上してきている。その結果、まちづくり協議会事業の環境美化推進標語にも優れた作品が多くみられるようになってきた。また、役員から「中学生が毎日通う道路を美しくできて清々しい気持ちになる。」との声も聞かれた。この事業が認められて、福岡県や市から感謝状も受けている。

一方課題としては、多いときは80名程の中学生が参加した時もあったが、今後参加する生徒を増やす方策も考えてみたい。また、世話役の役員だけでなく、中学生の保護者の参加も検討してみたい。



【美化作業の様子】



【バーベキューの様子】

【問合せ先】 水上校区まちづくり協議会

〒835-0192 みやま市瀬高町長田2352-1

TEL/FAX 0944-63-3050

【地域の概要及び経緯】

飯塚市は、面積 213.96 キロ平方メートルで、福岡県のほぼ中央に位置し、気候は、盆地を形成しているため夏冬、昼夜の気温差がかなりあり、内陸性気候の特徴を示しています。

平成 18 年 3 月 26 日に飯塚市、穂波町、筑穂町、庄内町、穎田町が合併し、福岡県の中では、福岡市、北九州市、久留米市について、4 番目に人口の多い都市となりました。新しく誕生した飯塚市は、平成 28 年に合併 10 周年を迎え、「人が輝き まちが飛躍する 住みたいまち 住みつづけたいまち」を都市目標像に、市民との協働によるまちづくりに取り組んでいます。

【活動内容】

生涯学習課では、子どもから大人まですべての人々が、生涯にわたって力強く歩み続けるために、「いつでも どこでもだれでも」自由に学ぶことができる環境をつくり、その学習の成果を様々な場において、人から人へ、地域社会の中へ、世代を超えて環流できるよう、それぞれのライフステージに応じた学習機会の提供を行っています。

子どもたちを対象に、市内各小学校で実施している「放課後子ども教室推進事業」において、学校と地域の連携のもと、放課後や週末等に学校の余裕教室等を活用し、子どもたちの積極的な学習意欲を支援する内容を実施するとともに、異年齢との交流による協調性や社会性といった「生きる力」の習得ができるように支援しています。

大人対象にもさまざまな事業を行っています。「いづか市民マナビネットワーク事業（e-マナビ）」では、市民が身近な場所において少人数で自主的、自発的に学習ができます。また、小学校の余裕教室に通い、自主的な学習や学習支援ボランティアとしての活動を行う「熟年者マナビ塾」や「コスモス大学」では、高齢者の方々に学習機会を提供し、この講座で得た知識や技術を地域でのボランティア等で活躍に繋げることができています。これからも、住民ニーズや時代状況に対応した事業に取り組むとともに、あらゆる世代の市民が学ぶことのできる場所を提供していきます。

【成果と課題】

ライフステージに応じた様々な学びの場を提供することにより、新たな生きがいつくりや人間関係の構築に寄与しています。また、地域活動を担う人材の育成が徐々に進んでおり、住民によって地域を活性化する力が向上しています。

課題については、各種事業の拡充のためにより多くの市民に周知できる広報活動、指導者の発掘等が重要と考えています。今後は、広報誌掲載、通信発行、チラシの設置や SNS の活用など、より多くの方が本市で実施している生涯学習事業を知っていただけるように工夫していく必要があります。



【写真 1 : 「e-マナビ」ZUMBA の様子】



【写真 2 : 「熟年者マナビ塾」の様子】

【問合せ先】 飯塚市中央公民館（イツカコミュニティセンター）

〒820-0041 福岡県飯塚市飯塚14番67号

TEL 0948-22-3274 FAX 0948-22-3609

第64回福岡県公民館大会報告

【県大会テーマ】『持続可能な地域づくりに向けて 公民館が進む道』
～地域住民を巻き込む一体的な取組を創造する公民館活動～

1 概要

第64回福岡県公民館大会を令和元年7月26日（金）、苅田町立中央公民館（苅田町）において、県内各地から公民館に関わる706名の方々に御参加いただき、盛大に開催することができました。

本大会は、講師を招いての講演や先進的な取組を行っている公民館関係者によるパネルディスカッションをとおして、参加された皆様と共に本大会のテーマである「持続可能な地域づくりに向けて 公民館が進む道」について考え、今後の取組に生かしていただくことを目的に実施しました。

2 開会・記念式典

本大会でも、地元の高校生に司会進行をお願いしました。今回は、県立苅田工業高等学校の放送部のお二人です。大変聞き取りやすいアナウンスで大会をスムーズに進行していただきました。

大会式典の表彰式では、地域の公民館活動の振興に顕著な御功績があった30名の方々と2公民館に対し、福岡県公民館連合会から表彰を行いました。表彰を受けられた皆様には、これまでの御尽力に対しまして、心から敬意を表します。



【表彰式の様子】

3 講演

「魅力ある地域づくりを担う公民館の役割を創造する」
～住民の参画意識・自治力を高める公民館活動の工夫～

昭和女子大学総合教育センター 特任教授

昭和女子大学コミュニティサービスラーニングセンター長 興梠 寛 氏

大会式典後、昭和女子大学の興梠寛氏から御自身の豊富な経験と実践を踏まえた御講演をいただきました。

自ら考えて学び取る力を養い、地域の活性化などに貢献するために、学生が興味や専門知識を活かして、社会貢献やボランティア活動をする「コミュニティサービスラーニング」に取り組んでこられた数多くのご経験から、公民館の役割や秘めた可能性についてお話しいただきました。これからの公民館には「人びとが必要とされるチャンスを拓くこと、そしてコミュニティの課題とつなげていくこと」や「人と人、人とコミュニティの参画基地に」「公民館を若者のボランティア基地に」など、熱いメッセージをいただきました。



【講演の様子（興梠 寛 氏）】

4 パネルディスカッション

テーマ「持続可能をめざした地域づくりに向かう公民館活動の在り方」

【コーディネーター】

昭和女子大学総合教育センター 特任教授

昭和女子大学コミュニティサービスラーニングセンター長

興梠 寛 氏

【パネラー】

(公財) 広島市文化財団古田公民館 社会教育主事

為政 久雄 氏

宮崎県綾町自治公民館連絡協議会 会長

玉田 清人 氏

公演後のパネルディスカッションでは、講演に引き続き興梠寛氏にコーディネートしていただきながら、「持続可能をめざした地域づくりに向かう公民館活動の在り方」について、古田公民館の為政氏、綾町自治公民館の玉田氏とともに考えていきました。

ディスカッションに入る前に、まず、それぞれの公民館がどのような活動をしているのか御紹介いただきました。古田公民館からは、「多世代」をキーワードに中学生がつくる冒険遊び場「ワンダふるたパーク」の取組について御紹介いただきました。綾町からは、区長制から自治公民館制度に移行し、住民参画による地域づくりの取組について御紹介いただきました。

その後、「持続可能な地域づくりの条件を3つ挙げるとすれば？」や「取組を行っていく上での落とし穴は？」、「“持続可能な地域”とはどのような地域だと思うか？」といった問いについて、会場の参加者はワークシートに記入し、パネラーはホワイトボードに書いて、互いの考えを比較しながら討議をしていきました。

最後にコーディネーターの興梠寛氏から、

国連とNGOと一緒に作りあげた持続可能な開発目標（SDGs）と今後の公民館のあるべき姿や方向性とは関連づけながら、「公民館は、子供やお年寄りなど誰一人置き去りにしないコミュニティを創る実践拠点でありたい」とパネルディスカッションをまとめていただきました。



【パネルディスカッションの様子】

【持続可能な地域づくりの条件を
3つ挙げるとすれば？】

〈為政氏〉

- ・住民の「やりたい」から始まっている（自発性）
- ・町に面白いがあふれている（創発性）
- ・いろんな煩わしいが混ざり合っている（多様性）

〈玉田氏〉

- ・結いの心（2代前の町長の合田さんが書いた本）
- ・各種団体を生かす
- ・絆（170戸の家が互いに信頼）

【パネラーの考え】

5 来年度に向けて

本大会を開催するに当たっては、特に、開催地区である京築地区の皆様の御尽力により盛会のうちに終えることができました。心より感謝いたします。

来年度は、北九州市の北九州芸術劇場におきまして、8月7日の開催を予定しております。参加された皆様からいただいたアンケートの結果等も参考にさせていただき、さらに実り多き大会となるよう改善に努めてまいりますので、今後とも公民館活動の充実・振興のために御協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。